

希望に沿った快適な住まいで自分らしく住み続けている

安全・安心で利便性の高い環境のもと
人と人が支え合うコミュニティが形成されている

①住みつなげる 良質な住まいの形成

住み心地のよい安全・快適な住まいを新築・中古両面から供給を促進し、良質な住まいを増やす

②高経年化した 住まいの適切な管理、 除却・更新の促進

使える空き家を手頃な住まいとして流通につなげるとともに、空き家・マンションの適正管理を後押しし、管理不全化を予防する
使えない空き家は、除却・更新を促進する

③だれもが安心して 住み続けられる 住まいの確保と生活支援の連携 を実現

市営住宅や公的賃貸住宅、民間住宅等により入居を拒まれず円滑に入居できる住まいを確保するとともに、住み慣れた地域で望む住まいに住み続けられる環境をつくる

④頻発・激甚化する 自然災害に対する 充実した備えの強化

地震や水害・土砂災害・猛暑などの危機に対して、平時から防災への意識を高め、備えるための情報や支えあう体制を整備する

⑤自分らしい 住まい方・ 暮らし方ができ るネットワーク の形成

自分に合った地域や人との関わり方が選択できる多様なネットワークを創出する

⑥ライフタウン※ として安心、便 利で暮らしやす い住環境の実現

選ばれるまちとして重要な条件である“生活利便性”が高いまちで、安心して暮らせる住環境を形成する

住 ま い の 供 給

居 住 の 安 定

希望に沿った住まいが手に入る

円滑な入居

居住継続

持家・賃貸住宅

賃貸住宅

持家・賃貸住宅

都市基盤整備
(ハード)と
コミュニティ形成
(ソフト)

日常の暮らしの
充実

都市基盤整備
(ハード)

●質の高い住宅供給の促進

- ・人の健康や環境にやさしい住宅
- ・住宅の性能向上
- ・健康で安全に暮らせる住まいづくりの普及(高)
- ・子育てしやすい住まいづくりの情報提供(子)
- ・環境やIoTなど時代に適応した住まいづくり(子)

●空き家の状態に応じた対策

- ・未然防止
- ・流通促進
- ・空き家の活用に関する情報提供
- ・インスぺクション等の普及促進(子)
- ・アフォーダブル住宅の供給支援(子)
- ・管理不全化した空き家への指導、解消
- ・空き家処分の伴走支援(高)
- ・住まいの終活の普及促進(高)

●マンションの適正管理の促進

- ・適正管理の普及促進
- ・管理組合への支援

●入居を拒まない 賃貸住宅の確保

- ・入居を拒まない賃貸住宅の供給促進
- ・住まいに関する情報の一元化
- ・家賃保証等の入居前支援
- ・セーフティネット住宅に関する情報提供

●市営住宅の適切な管理・運営

- ・安定した入居者募集の実施

●住み続けるための 支援の充実

- ・福祉分野と連携したサポート
- ・高齢期を見据えた住宅改修や住まい方の普及促進(高)
- ・IoTを活用した見守りなど生活支援の充実(高)

●災害リスクの周知

- ・ハザードマップによる情報発信
- 地域の防災力の向上
- ・自助、共助による災害への備えの普及促進
- ・災害時要援護者支援制度の普及
- ・個別避難計画の策定促進
- 事前復興まちづくりの推進

●多様な活動・場づくりの展開

- ・住まいを活用した住民主体のまちづくりの推進
- ・空き家を活用した交流するための場づくり支援
- ・世代間の交流によるコミュニケーション能力の向上(子)
- ・外出機会の創出(高)
- ・キャリアを生かした社会活動への参加(高)
- 春日井暮らしの魅力発信

●生活・交通利便性の向上

- ・公園、施設等の再配置や医療、介護施設の整備誘導の検討(子)(高)
- ・歩きやすい安全な歩行空間の整備
- ・自動運転やパーソナルモビリティを活用した取組みの支援
- ・安全な居場所の確保
- 防犯性の高いまちづくりの推進
- ・防犯灯、防犯カメラ設置支援

●住まいに関する総合的な相談体制の構築(庁内・関係団体等と連携)

- ・住まいに関する課題を抱える人に対する住まいの相談体制の構築

●住生活リテラシー※の向上

- ・住教育機会の創出(住まい選びから維持管理及び次の住まい手への承継や、自然災害への備え、まちづくり教育等)

●居住支援体制の構築

- ・居住支援協議会の体制検討
- ・居住支援団体の発掘・活動支援
- ・住まいと職業支援、住まいと生活支援をセットにした総合的な居住支援の推進

※住生活リテラシー…
一人ひとりがより良い住まいを選択し判断することができる能力のこと

※ライフタウン…
一人ひとりがいきいきと働き、自分らしく暮らせるまちをイメージしたもの

■子育て世帯に対する基本的な考え方

(春日井市の状況) **2010年代後半頃～転出超過傾向**

【世帯分析】2010年～2020年で微減傾向 (**約2.8万世帯⇒約2.6万世帯**) (国勢調査) ※1

共働き子育て世帯は約1.3倍 (約0.9万世帯⇒約1.2万世帯)

(国立研究開発法人建築研究所) ※2

【居住状況】**持ち家率78%** (63%が戸建て、15%がマンション) (H30住宅土地統計調査) ※3

【今後の居留意向】約85%が市内居住を希望 (アンケート)

(市内居住希望：春日井市に住みたい40% + 当分は春日井市に住み続けるつもり44% + 市内で転居したい0.5%)

※1：子育て世帯 (①+②)

①夫婦と子供で構成する世帯
(18歳未満の子がいる)

②18歳未満の世帯員のいるひとり親世帯

※2：共働き子育て世帯 (①+②) ※末子が18歳未満

夫婦と子供で構成する世帯のうち、

①世帯主・配偶者が共に「正規の職員、従業員」または「労働者派遣事業所の派遣社員」である世帯

②世帯主・配偶者のいずれかが「正規の職員、従業員」であり、もう一方が「パート、アルバイト、その他」である世帯

※3：子育て世帯

夫婦と子供で構成する世帯

- ・現在の住まいにおいて「住居費負担」の重要度が高く満足度が低い (アンケート)
- ・新築戸建て住宅の価格が周辺市に比べてやや高い (県平均と比べて10%程度) (レインズ)
- ・戸建て住宅の新築と中古では価格差が25%程度ある (新築約3,500万円、中古約2,600万円) (レインズ)

▶**手の届く価格の住まいの供給が必要**

- ・現在の住環境において「子育てや教育環境の良さ」の重要度が高く満足度が低い (アンケート)
- ・子どもが安全に遊べる公園等について、市の西部及び中部地域において不満足度がやや高い (アンケート)
- ・「落ち着いた環境での子育て」「徒歩圏内の魅力的なお店の充実」「自宅付近で仕事をしながら暮らせる」まちが理想 (アンケート)
- ・「仕事と子育ての両立を支えるサービス等」に関する相談ニーズが高い (アンケート)

▶**子どもが健やかに育ち、共働き世帯が働きながら子育てしやすく暮らしやすい環境の整備が必要**

- ・「リフォーム (テレワーク等)」や「空き家の活用 (DIY等)」に関する相談ニーズが市民全体より高い (アンケート)
- ・[全国]社会全体的にSDGsの考え方が浸透し、シェアリングエコノミーの考え方が広まってきている (国土交通白書)
- ・[全国]新築中古にこだわらない割合が増加傾向 (2008年⇒2018年で6ポイント増の34%) (住生活総合調査)

▶**価値観の変化に対応した、今の時代に合った住まい方・暮らし方を可能とする環境づくりが必要**

※アンケート：住生活基本計画の策定に向けて令和6年度に実施した市民アンケート調査

(仮称)かすがいこどもまんなかプラン 春日井市空き家等対策計画 高蔵寺リ・ニュータウン計画 春日井市教育大綱
春日井市産業振興アクションプラン 春日井市耐震改修促進計画 春日井市環境基本計画



子育て世帯がそれぞれの価値観に合った住まい・暮らしを選択できるようにする

■高齢者世帯に対する基本的な考え方

(春日井市の状況)

【世帯分析】2010～2020年で約1.4倍（約2.3万世帯⇒3.2万世帯）（国勢調査）※1

単身高齢者は約1.65倍（約0.9万世帯⇒約1.4万世帯÷全世帯の約1割を占める）（国勢調査）

【居住状況】70%が戸建て持ち家、19%が借家に居住（H30住宅土地統計調査）※2

【今後の居留意向】60代以上の単身・夫婦世帯の約89%が市内居住を希望。うち今の住まいに住み続けたいが約94%（アンケート）

（市内居住希望：春日井市に住み続けたい49%＋当分は春日井市に住み続けるつもり38%＋市内で転居したい1.5%）

※1：高齢者世帯（①＋②）

①単身高齢者世帯

②どちらかが65歳以上の夫婦のみの世帯

※2：高齢者世帯

家計を主に支える者の年齢が65歳以上の世帯

【全国】：全国的な傾向・全国データ

- ・【全国】高齢期の不慮の事故死は転倒等／窒息／溺死・溺水の順に多い（交通事故死以上）

家庭内の不慮の事故死の89%が65歳以上の者（家庭内の不慮の事故死のうち43%が不慮の溺死・溺水）（人口動態調査）

- ・高齢者等のための設備がある住宅は持家で65%（手すり設置57%、段差のない屋内28%、またぎやすい浴槽27%）（H30住宅土地統計調査）
- ・建築年が古い持家は断熱性能が低い（二重サッシの窓の設置状況が築20年以上では18%）（H30住宅土地統計調査）
- ・【全国】住まいの断熱性を高めると住宅内での活動が活発になる。床近傍の室温が低い住宅では疾病リスクが高い（国交省調査）

▶高齢期を安全で健康に暮らせるための住まいづくりが必要

- ・現在の住環境において「生活利便性」「医療・福祉サービスの利用しやすさ」の重要度が高い（アンケート）
- ・「地域等との関係づくり」「いきがい等感じられる暮らし方」に関する相談ニーズが市民全体より高い（アンケート）
- ・【全国】高齢期によく外出する人は生きがいを感じやすく、生きがいがある人ほど健康状態が良い（R4年高齢者社会白書）
- ・【全国】子世帯との近居は高齢者に好影響の可能性（日本世代間交流学会誌：独居高齢者にとっての「近距離」別居子と心理的健康、2014）

▶いきいきと健康に暮らし続けられるためのネットワークや住環境づくりが必要

- ・「高齢期の住まいや住み替え」「日常の見守り」の相談ニーズが市民全体より高い（アンケート）
- ・【全国】高齢者に対して7割の大家が拒否感を有する（国交省調査）

▶高齢期でも住まいの選択を可能とするための居住支援体制の構築が必要

- ・単身高齢者の将来の空き家活用への対応は【考えていない】が31%（アンケート）
- ・空き家の管理・相続・処分の相談ニーズが市民全体より高い（アンケート）

▶今後増加が予測される空き家への対策として、高齢者への“住まいの終活”の促進が必要

※アンケート：住生活基本計画の策定に向けて令和6年度に実施した市民アンケート調査

春日井市空き家等対策計画 高蔵寺リ・ニュータウン計画 春日井市生涯学習推進計画（仮称）地域共生プラン2025
春日井市耐震改修促進計画 春日井市環境基本計画 春日井市高齢者総合福祉計画

高齢期に望む住まいで、これまでの経験を活かして、地域でいきいき暮らせる環境を作り出す